

「なぜ私の人生は崩壊していくのか」 コロサイ 1:15-23

ご存知の通り、明日はメモリアルデー（戦没者記念日）です。

アメリカ軍に従事し殉職された方々を覚え、敬意を払います。

今日ここにいる、軍に従事しておられる皆さんに対しても、私たちは感謝してもしきれません。

明日の戦没者記念日には、大いなる犠牲を心に留めて下さればと思います。

それは、第1日曜日の聖餐式で毎回覚えているもので、究極の犠牲、イエス様がご自分の命を献げて、全人類のために全ての代価を支払われた犠牲です。

では、始めましょう。

使徒パウロが聖霊によって書いています。

コロサイ 1:15-23

15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。

16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。

万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。

18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。

御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。

こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました。

19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、

20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとくださったからです。

21 あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、

22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。

あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。

23 ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。

この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。

祈りましょう。

愛する天のお父様、今朝私たちの前にある、あなたの御言葉の箇所を心から感謝します。

主よ、あなたの御言葉を愛しています。

そしてあなたを愛しています。

今、私たちは思いを静め、心を落ち着かせて、全神経をあなたに集中することができるように、大きな期待をもってあなたに目を向けます。

御言葉の中で非常に力強く、また個人的に私たちのいのちに語って下さい。

主よ、お語り下さい。しもべは聞いております。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は非常にシンプルながら、それでいて非常にパワフルな真理について語りたいと思います。

「なぜ、時に、人生がバラバラに崩れて行っているように見えるのか。」  
そして更に重要なことで、「何によって、どのようにして、人生を保つことができるのか。」  
「どうすれば、ちゃんと生きられるのか」についても。

しかしその前に、ここでパウロが語っている事の意味を、より深く理解するのがいいと思います。  
告白しなければならないのですが、今日のコロサイ書1章からの教えを準備し、構築し始めた時、これまでも何回も読んでいたのに（そんなにしょっちゅうじゃないですが）、今回15節から23節までを読んで、申し訳ないけど「はあ？何ですと？」「ちょっと待った。何？」  
それで、主との時間をもっと取りました。

通常、私は月曜日から心を整え始め、聖書箇所親しむことに時間を費やし、主に「この箇所に対して私の目を開き、心を祝福し、教えて下さい。」と祈ります。

できれば月曜日から火曜日に深い理解を、少なくとも大体の流れを知りたいのですが、主が水曜日まで待つ時は辛い。

で、水曜日頃、主が私の心に非常にパワフルな真理を啓示し始めました。

それは、このところに織り込まれているものです。

主が示して下さいたことをシェアしますので、どうか注意して聞いて下さい。

さて、**コロサイ 1:15-16** でパウロはまずこう言っています。

**15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。**

**16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。**

「イエスが創造者であり、万物より先に生まれた方である。」

同時に、ある意味において知ることができない神を伝え、見ることができない神を見ることができるようになっています。

イエスは「わたしを見た者は、父を見たのです」と何度言われたでしょうか。

ここでイエスは創造者で、万物より先に生まれた方として書いてあります。

**コロサイ:17-21**、これは重要なので、今日はここをもっと詳しく見ていきます。

**17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。**

**18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。**

御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。

こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました。

**19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、**

**20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しと下さったからです。**

**21 あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、彼は言います。**

「全てを保っているのはイエスである。なぜなら万物に対して支配権を持っておられるから。」

そして、**コロサイ:22-23**

**22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。**

あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。

**23 ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信**

仰にとどまらなければなりません。

この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。

「キリストは私たちをご自分と和解させ、私たちを聖く、傷のない者として御前に立たせて下さる。」  
そして 23 節の「ただし」(If)

これは、時代遅れのたとえで言うなら、“Jams a lot of gears” (多くの歯車の回転を止める)  
“Crashes a lot of hard drives” (多くのハードディスクを壊す)の表現の方がいいかもしれません

「キリストは私たちをご自分と和解させ、私たちを聖く、傷のない者として御前に立たせて下さる。  
ただし！ (If) 私たちが信仰に強く立っているなら。」

パウロは「救いを保つために、信仰に強く立っていなければならない」とは決して書いていません。  
そんな事は言っていない。

また、「もし～なら、あなたは救われている」とも言っていない。

「あなたは救われている。以上。」

完了。決定が下され、判決が出ている。代価も支払われ、「完了した」

だから彼は、そのことを言っているのではないのです。

では、一体何の事を言っているのか。

彼は「事実、私たちの聖さが救いの証であり、証明である」と言っているのです。

「ただし (If)、私たちが救われた後に強く立つなら、私たちの聖さ (それは、私たちを御前に立たせる聖く、傷なく、非難されるところのないもの) が、私たちの救いを証し、証明する。」

これが、パウロが言っていることです。

事実、ここで語られている事が、何年も前に信仰告白をした人の人生に、実を見ることができない理由かもしれません。

「私は救いの祈りをしたよ！」

でもその人たちの人生を見ると、「本当？」とってしまう。

日曜学校の歌を思い出します。

「あなたが救われ、救われたと分かっているなら、あなたの生活に必ず現れてくる。」

実が現れるようになり、その実は成長していくのです。

これは私が個人的に信じていることですが、誰かが「私は何年も前に、あのクルセードで救いの祈りをしたんです。私はクリスチャンです！」と言っても、救いを証明する聖さがなければ、その人は初めからボーンアゲインしていない。

最初から救われていなかったのです。

ある解説者が、「敬虔に生き続けることがクリスチャンには重要だ。

しかし敬虔な生き方によって、救われているのではない。

それゆえクリスチャンは、福音の真理に留まり続けることがもっと重要である。

なぜなら、私たちは信仰の恵みによって救われているからだ。」と書いていて、私はこの解説が好きです。

これが救い。

救われた時に神の御霊が私たちの中に住み、救いの後に再生と聖別の作業が始まるのです。

これが、今日のテキストからの学びの1つだと思います。

さて、もう1つ別の重要な真理があります。

残りの時間はこれに集中しましょう。

「イエスが私の人生の中心に（存在されるべき位置に）おられる時、彼はどのように、私の人生の全てを保っておられるのか。」

もう1つの「ただし」(If) があると思います。

「ただし (If)、イエスが私の人生の主として、私の人生の王座という正しい位置におられるなら「主」と「救い主」の間に線を引いて分けて下さい。

多くのクリスチャンは救われています。

イエスは彼らの救い主です。

しかし事実は、イエスは彼らの主ではないことが明らかです。

イエスが彼らの人生の中心にいない。

イエス・キリストが人生の最も重要な方になっていない。

このように考えてみて下さい。良いたとえを聞きました。全部盗用ですが。

太陽系にある全惑星、とりわけ地球は太陽の周りを回っています。

太陽が今の位置から少しでもずれるなら…

Forget about it.(どうでもイイ。気にしない。)

すみません。ちょっとニューヨーカーぽかったですね。

「どうでもイイ。そんなこと、忘れろ。」

今は全てが混沌としています。

ある人が言いました。

「太陽がほんの少し遠のくだけで私たちは凍り、ほんの少し近づくだけで焦げ付くという証拠がある。

太陽 (Sun) は完璧な位置にあり、全ては太陽を中心に回っているのだ。」

私が言おうとしている事、分かりますね。

同様に、御子 (Son) が正しい位置におられ、私たちの世界 (人生) が御子を中心に回っているなら混沌にはなりません。

全てに秩序があり、御子が全てを保っていて下さいます。

あなたの全ての決断、全ての人間関係、全ての行いにおいて、あなたが最もよく話をする人、最も時間を共にする人は誰ですか。イエスですか。

それが、あなたの人生の中心に、イエスが主としておられるかを知るリトマス試験です。

イエスが全てを保っておられます。

イエス・キリストが創造主として、文字通り全宇宙を保っておられる事についてお話します。

イエスは天と地と海、その中にある全てのものの創造者です。

じっくりと考えましょう。

あなたが心配している事は何でしたっけ。

いえ、私自身に語るべきかもしれません。赤裸々に話しますが、ばかにしないで下さいね。

皆さんは私がしっかりしていると思っていますが、何か起こると私はパニックになるんです。

「ああ、神様！ ど、ど、どうしたらいいんですか?!」

—「どうした？ 何が起こったんだ？ いつこれが起こったんだ?! 全然知らなかった。」

私は、神が天でこんな風に（両手を広げて驚くジェスチャー）なるのを想像したことはありません。

「そんな…神様、あなたは全てをご存知のはずでしょう。一体どういうこと？」

神は御座におられます。

御座の前を行ったり来たりしながら、「どうすればいいか分からない」なんて言われません。

イエスは私に本当に優しくて。そうせずにはいられないのだと思います。

そして常に愛情深く、とても優しく思い起こさせてくれるのです。

「いいかい、わたしは全宇宙を創造したんだよ。

わたしが造った宇宙の広大さと比べると、あなたがいる地球は目に見えないほど微小な点にすぎない。

あなたが見ている星はものすごく多くて、実際、海辺の砂と同じ数なんだ。」

それでも驚かないと言うなら、これはどうですか。

「私はただ創造しただけではなくて、一つひとつ全部に名前をつけたんだ。」

預言者イザヤは、「神はそれほどに私たちのことを思っておられる」と言っています。

どれほどですか。

神が私たちを思う、その思いは、海辺の砂と空の星の数に匹敵するほど多いのです。

それはまるで、主がこのように言っておられるようです。

「あのね、あなたはあの事を心配しているのかい？」

私はといえば問題を見ていて、問題を見れば見るほど、問題は大きくなる。

私が言っている事、分かる人は分かるはずです。だって、私と同じ事を経験済みですから。

最初は小さな事だったのに、気がついたらすごく大きな事になっていて、「ああ、どうしよう！」

その過程で、あなたは神様を非常に小さくしてしまっているのです。

福音書の中でイエスが辛辣な、或いは怒った口調で話しているのを、私は想像したことがありません。

むしろ哀しみと、更には憐みだったと思います。

「あなた達の信仰は、なぜそんなに小さいんだ？ 神はこんなにも大きいのに。

気がつかないのかい？ わたしは宇宙を造っただけではなく、全てを保っているんだよ。

あなた達はわたしが宇宙を保ち、構築し、全てを解決することができると思っていない。

自分がここで誰と関わっているか、分かっているか？

わたしが誰かを知っているのか？

わたしが誰であるか、知っているか？ 『わたしはある』という者だ。」

真理は、「イエスは文字通り全万物、全宇宙を保っている」

この事実は、科学と物理の世界では、長い間ずっと深い謎とされてきました。

科学者たちは何が全てを保たせているのか、その答えを持っていません。

でも私たちにはあります。

答えは神の御言葉。

それは今朝のテキストの中と、ヘブル書にもあります。

### ヘブル 1:3

**御子 (Son) は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、(よく聞いて下さい) その力あるみことばによって万物を保っておられます。**

御言葉が全てを保っているのです。

今は主の元にいる作家で伝道者、牧師のレイ・ステッドマンはこう書きました。

「それは驚きの声明だ。主がまさに今、『わたしが万物を保っている』と現在形で語っている。」

彼は続けて、スタンフォード大学について書いています。

「スタンフォード大学には長さ2マイルの、巨大な粒子加速器の線形加速器がある。

それは大きな“てこ”で、科学者たちはそれを使って秘密の事柄をこじ開け、原子、中性子、陽子という微小な世界に何があるのかを発見しようとしたのだ。

線形加速器によって、科学者たちは夢にも思っていなかった複雑さを発見し、また自分たちが発明するこ

とも、命名すらできない素粒子の存在に気付いた。  
しかし彼らが一貫して悟っているものが1つある。  
それは、全てを保っている、ある未知の力だ。  
彼らはそれを何と呼べばいいのか、そしてそれをどう特定すればいいのか分からず、宇宙の接着剤のようなものが事物を1つに保っていると言っている。  
これは、非常に興味がそそられるではないか。  
神の言葉の中に全く同様の専門用語、“イエス”があるのだから。  
宇宙を保っている力の名前を知りたいのなら簡単だ。  
それは“何か”ではなく“誰か”であって、その名はイエス。  
このお方が、ご自身の力ある言葉で宇宙を保っているのだ。」

別の解説者はこのように説明しています。

「電荷の反発、“クーロンの法則”として知られている電気磁気学の法則は興味深い。  
この法則は、2つの磁石のプラス極を互いに押し付けることによって証明できる。  
磁石は互いに反発し、反対の電荷に引き合うのだ。  
しかし、ここに大きな謎がある。  
原子の中心核には、プラスの電荷を持つ素粒子である陽子が詰まっているのに、磁石のように互いに反発しない。  
それを維持しているものは何であるか。何がそれを保っているのか、科学者たちは知らない。」

私は知っていますよ。

木曜日に詩篇を学んでいます、詩篇の作者はこう言いました。

「私は私の教師よりも賢い。彼らは知識は豊富だが愚かだ。私は彼らより賢い。  
それは、あなたが私に教えて下さったからです。主よ、あなたが私に教えて下さいました。」  
とにかく、私につき合ってください。  
こう言う時こそ、私は聖書教師として、量子物理学を知っている方たちよりも賢いと感じることができるのです。

続きです。

「一体何がそれらを保っているのか、科学者たちは知らない。  
量子物理学を学び、多くの理論を知ることはできるだろう。  
しかし今日に至るまで、それは彼らには謎なのだ。  
だが、信者にとってはそうではない。なぜなら、聖書が本当の答えを告げているからだ。  
全てを保っているのはイエス・キリストである。  
そして（これは興味深いですよ）突如、キリストが手を放す時が来る。」

それから彼は**Ⅱペテロ 3:10**を引用しています。

これについては、預言アップデートで頻りに語っていた事ですが、非常に興味深く、終わりの時に起こる事を詳細に説明しています。

イエスが今まで保っていたもの全て、すなわち宇宙から手を放す時、それら全ては溶け去ります。  
その熱の強さと…すみません。私は中性子（Protons）や陽子（Neurons）というものの違いがよく分かりません。間抜け（Moron）なら知っていますが…  
とにかく、イエスが手を放したら、全てがバーン！ 以上終わり。

**Ⅱペテロ 3:10**

しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象

(別訳: **自然界の構成要素**) は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまいます。

いつ起こるのですか。

主が「時間切れだ。わたしは手を放す。」と言われる時です。そうです。

最後の質問です。しっかり考えて終わりにしたいと思います。

「イエスは宇宙の万物を保つことができる。これを知る事は、イエスは私の人生の全てを保つことができるという事を知る、何よりの理由ではないのか。」

修辞疑問のように聞こえるかもしれないのは分かっています。

むしろ、そうであったらと思いますよ。

現実には、私たちはイエスがあるべき正しい位置に置いていないのです。

それが、私たちの人生がこんなに混沌としていることの説明です。

だから、全てが崩壊しているのです。

2.3か月前に、私はバカなことを始めました。

ところで、若者言葉の1つで「ヤバイ (Sick=病気)」、これには慣れません。

子供たちが「ヤバイ (Sick)」と言い始めた時の事を覚えています。「誰が病気なんだ？」

だって、私たちの時代、Sickは良いものではありませんでしたから。

でもどうやら、Sickは良いものらしいです。

イエスが戻って来られる時、Sick (ヤバイ) は良いことなんです。

ともかく、脱線しました。これはバカなことです。

私たちは5人家族です。

左手は私たち。

(親指から) 長男のイライアス、次男のリーバイ、娘のサビア、妻のキャリー、最後は私。

それで、私たちには25の家族関係があるのです。

「神様、あなたが私の家族を1つにして下さらないと…」

5人家族で25の家族関係。これだけで多くを物語っていますよね。

私には証拠となる傷もあります。髪の毛も薄くなってしまったし。私の問題はもう十分。

左手が私の家族、私の必要です。

右手は私の神。

(指を組み合わせて) 神は私と家族を御手の中で保って下さっている。

私はこのようにするのです。

(左手を右手に近づけながら) 私は家族を神の元に連れて行く。

(指を組み合わせて) すると詩篇の作者が書いている通り、神は御手の中で私たちを堅く保って下さる。

(組み合わせたまま) 私は家族一人ひとりのために祈ります。自分のためには最後です。

神が「分かったよ」と言われているのを想像するんです。

息子2人、「分かったよ。」

娘、娘は特にですよ。彼女が結婚する前にイエスが戻って来るように祈っています。彼女が40歳の時に。皆さんは笑っているけど、私は真面目ですよ。

妻、私が若い時から30年連れ添った妻。人生最愛の女性。私の妻。

そして私自身、「神様、頼みますよ。私たちをつなぎ留めて下さい。私たち全員を1つに保って下さい。」

「あなたがいなければ…」

結論です。

イエスは私を感情的に、肉体的に、精神的に、そしてもちろん霊的に保つことができ、そのようにして下

